

夢をみていた

新聞のたまった部屋で起きた朝 夢をみていた気がするのです

やわらかい手触りだった 肩を抱き寄せたのは誰の手なのだろう

口笛がうまく吹けなくなっていた 息を吐ききるだけのくちもと

カーテンを開ける 太陽の光がわたしの傷をやさしくなでる

つらくないまぶしくない朝日にやっと会えたねわたし、まだ夢ですか

有料のページにすすむ このさきも夢が続いてくれますように